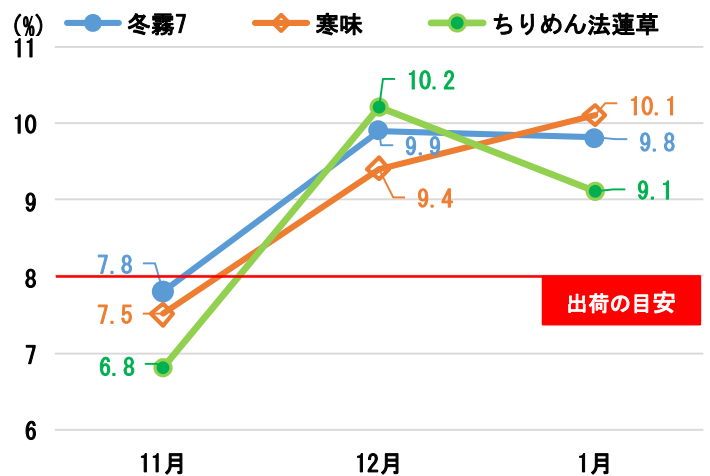
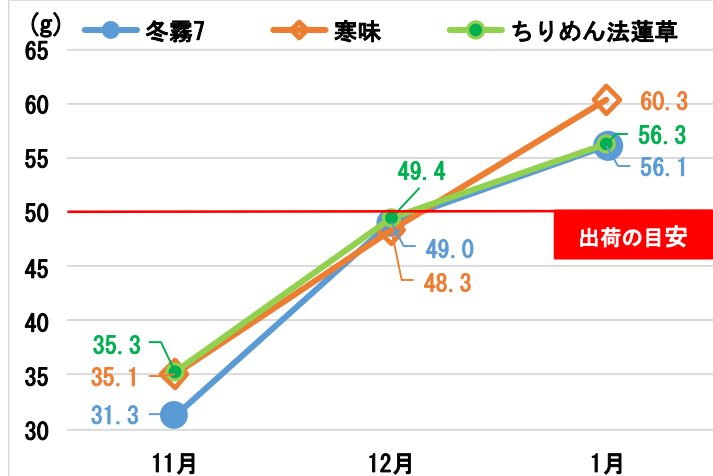


背景・目的

寒締めほうレンソウ栽培を行う生産者への情報提供のため、令和3年度の気象条件下での寒締めほうレンソウの生育状況を確認し、結果をまとめました。

結果

播種：R3.9.15（406穴育苗用紙筒へ1穴1粒播種）
定植：R3.9.30（本葉2枚期）
調査日：①R3.11.24, ②R3.12.22, ③R4.1.19



一株重の推移

糖度の推移

- 健全発芽率は、‘冬霧7’‘じっくり朝霧’‘寒味・極’が90%を超え、発芽のそろいも良好でした。
- 11月の調査では、出荷の目安とした、調製後一株重50g、糖度8%を満たした品種はありませんでした。
- 12月の調査では、調製後一株重50gを超えた品種はありませんでしたが、糖度は‘寒味・極’以外の品種で8%を超え、‘冬霧7’‘寒味’‘ちりめん法蓮草’は9%を超えました。
- 1月の調査では、全ての品種で出荷目安の重量と糖度を超えました。‘冬霧7’の糖度は9.8%で、‘寒味’‘雪味菜02’では10%を超えました。



健全発芽率及び全収穫調査結果の平均

品種	健全発芽率 (%)	調製後一株重 (g)	調製後収量 (kg/a)	糖度 (Brix%)
冬霧7	93	45.5	202	9.1
寒味	75	47.9	213	9.0
ちりめん法蓮草	88	47.0	209	8.7
じっくり朝霧	90	40.5	180	8.3
寒味・極	91	50.0	222	7.5
雪味菜02	62	45.1	201	8.5

結果の活かし方

寒締めほうレンソウとしてのバランスが良く、最も当地での栽培に適していた品種は、市内で最も栽培されている‘冬霧7’でした。

‘寒味’‘ちりめん法蓮草’は‘冬霧7’よりも健全発芽率が劣るものの、収量及び糖度は同等で、当地の栽培に適した品種であると考えられました。